

三浦小学校

「自主・自律から

協働・共生へ」

校長 明神 通恭

雲間からこぼれる陽の光の眩しさに目を細め、焼けつくような暑さに夏の訪れを感じます。プールからは水しぶきの音とにぎやかな子どもたちの歓声が聞こえてきます。今年度も三浦の子どもたちは元気です。

◆教育目標の変更と実践

「自分で、できる」

仲間と、できる」

学校では、子どもたちの成長のためにさまざまな工夫がなされています。タマネギの栽培もその一つです。



昨年度、みんなでタマネギの苗を植えました。そして、大きく育ったタマネギを今年度の4月に収穫しました。



タマネギは地面の中で根を伸ばし、しっかりと土を掴んでいます。力を込めてタマネギを抜こうと頑張る子どもたちは、タマネギが抜けるときに土の中でタマネギの根と土が離れていく感覚を味わいます。

収穫したタマネギのずっしりした重さに驚きながら、いたるところで、キラキラした笑顔が見られました。



次は販売学習です。まず児童が地域の放送を使って呼びかけを行いました。

販売当日はあいにくの雨で、地域の方が来てくれないうのではないかと心配もしましたが、多くの方が訪れて用意していたタマネギは完売しました。



今後はこの収入を使って調理実習を行い、カレーライスやサラダなどをみんなで食べる予定です(左は昨年度の様子です)。



以上がタマネギ栽培を軸にした一貫した学習カリキュラムです。

このカリキュラムを通じて、子どもたちはさまざまなことを体験します。一人ひとりが教室で学んだことを活かして活動することで個に応じた学びをします。さらに実践する過程の協議や協力を通じて協働的な課題解決の学びをします。

三浦小の教職員間では「自分で、できる。仲間と、できる」という学校教育目標の達成に向けて「子どもの学ぶ機会を、子どもたちの自分でやる、仲間と一緒に自分たちでやる、という楽しさを、奪ってしまわないようにしよう」という確認のもとで活動機会を計画し、指導をしています。

◆対話型授業を通じて言語能力を鍛える

デューイは著書「学校と社会」(1915年)の中で「言語はあらゆる教育的手段のなかで重要なもの、おそらく最も重要なものであろう」と述べ、「言語活動」が、人間の思考の成長を促す最も重要な要素であることを指

摘しています。

三浦小学校では、あらゆる授業の中に目的のある言語活動を仕組んで「自分の意見を、相手に伝わるように、根拠をもとに述べる」ことを促すようにしています。【聴き手の様子をしっかりと見て、理解してもらえようように考えを伝えること】「話し手をしっかりと見て、何を伝えたいのか考えながら、傾聴すること」を大切に、「見る・考える・話す・聴く」という対話型の授業づくりを研究しています。



右は愛媛県美術館の鈴木有紀さんを講師に迎えての対話型鑑賞授業の様子です。

入野小学校

生きるための「実力」を
身に付けた児童の育成

校長 黒田 令子

本校は、今年度20名の新1年生を迎え、現在130名の児童が在籍しています。教職員数は20名です。

本校の学校教育目標は、一昨年度から「生きるための『実力』を身に付けた児童の育成」としています。

児童が大人になったときの姿を見据え、自らの幸福の追求と社会への貢献ができる生きるための「実力」を身に付けさせるため、「今」に付けるべき資質・能力の育成に向け、「チーム入野小」として、家庭・地域との連携のもと、一丸となって取り組む学校をめざしています。

特に今年度は、「三つの力」として

- ①自ら考え、判断し、行動する力
- ②他者と協働（他者とコミュニケーション）することのできる力
- ③見通し・計画を立てることのできる力

を付けていこうと児童とも共有し、私たち教職員が常に意識しながら教育活動を行っています。

◆日々の授業から

今年度の校内研究主題を「根拠を持ち目的に応じた書き表し方を工夫する力の育成」国語科の授業づくりを通して」とし、国語科で身に付けた力がほかの教科や領域、実生活に結びつき児童自身の「実力」となるよう研究を進めています。

そのために、昨年度に続き今年度も「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト事業における国語科授業づくり講座の拠点校として、他校の教員も交えて教材研究会や授業研究会を行



い授業力の向上をめざし研究を行っています。

特に本校の授業では、単元の始めに児童とともにこの単元で付けた力を確認し、自ら問いを持ってどのような学習を進めていくのか児童自身が計画を立て学びを進めることができるよう1年生から取り組んでいます。この積み上げにより、児童は、次第に自分たちで課題解決に向け計画を立てICT機器を有効に活用しながら主体的に考える力を身に付けてきています。さらに、自分の考えを持って仲間と学び合うことでさらに自分の考えを深めることができ、根拠をもって目的に応じた表現ができる力を育成できるよう教員同士、日々、学び合っています。

◆地域を学びの場とした生活・総合的な学習の時間

生活や総合的な学習の時間でも、地域を学びの場として児童が、自ら課題を見つけ探究的な学習を行っています。この学習の過程には、先述の「三つの力」と各教科で身に付けた力が不可欠です。

昨年度も、地域の皆さんには、児童の設定した課題をもとにした情報収集や体験的な活動にたくさん協力いただきました。また、児童が相手意識を持って学びを深め、伝える方法として、黒潮町内の各事業所さんに児童が作成したポスターなどを掲示していただいたりもしました。たくさんのご協力とご支援をありがとうございます。児童は、1つの課題を追究していく

なかで生まれた新たな課題の解決に向けさらなる見通しと計画を立てスパイラルに学んでいきます。今年度も、各学年でテーマを持って学びをスタートさせています。児童が自ら設定した課題の解決に向けて情報を集めたり、教えていただいたりするために地域の皆さんにご連絡をさせていただくこともあろうかと思いますが、何卒ご協力をよろしくお願いいたします。

